

## 令和5年度第2回利根町地域公共交通活性化協議会 議事要約

【日 時】 令和5年10月30日（月） 午後2時00分～午後3時30分

【場 所】 利根町役場 会議室5-A

### <配布資料>

- ・会議次第
- ・委員名簿
- ・会議資料1 利根町地域公共交通計画の策定について
- ・会議資料2 各種アンケート調査概要について
  - 2-2 住民アンケート調査票
  - 2-3 路線バス利用者アンケート調査票
  - 2-4 福ちゃん号利用者アンケート調査票
  - 2-5 ふれ愛タクシー登録者アンケート調査票
- 別紙1 住民アンケートに係る意見対応表
- 別紙2 住民アンケート調査票（意見対応表に基づく修正版）
- ・会議資料3 公共交通を取り巻く現状について

【出席者】 伊藤委員，塚田委員，小針委員，村野委員，板谷委員，仲野委員（代理出席 國下様），中嶋委員，櫻井委員，澤島委員，赤根委員，飯野委員，新井委員，服部委員，勝村委員

【欠席者】 川上委員，寺田委員，早川委員，花嶋委員，海老澤委員

【事務局】 政策企画課：布袋課長，生井係長，清水主査

1 開会（事務局 司会）

2 会長あいさつ

3 議事

事務局（司会）

それでは，次第3 議事に移りたいと思います。議事進行につきましては，利根町地域公共交通活性化協議会条例第6条第2項の規定により，会長に議長をお願いいたします。

会長よろしくをお願いいたします。

会長

承知しました。ここからは議事を私の方で進めさせていただきます。議事の説明は(株)ケー・シー・エスより進めていただくことになっています。よろしくお願いいたします。

まず，（1）利根町地域公共交通計画について よろしくをお願いいたします。

(株)ケー・シー・エス

\*資料に基づき説明（利根町地域公共交通計画の策定について）【資料1】

会長

ありがとうございました。それでは資料1につきまして、何かご質問やご意見がございましたらお願いしたいと思います。

委員

ミスプリントかと思うが、P3の利根町公共交通活性化協議会の第7回が令和6年2月とあるが、これは令和7年2月の誤りかと思う。

(株)ケー・シー・エス

すみません。令和7年の2月です。

会長

ご指摘ありがとうございます。修正のほどお願いいたします。

委員

1点確認になりますが、計画策定の趣旨のところ、国庫補助制度を法定計画と連動とあるんですが、今後、補助金の申請等々考えていらっしゃるでしょうか。まだそこまでの段階ではないかもしれませんが、もしお考えや計画があれば運輸局の方に言っていただければと思います。よろしく願いいたします。

会長

ご意見と思いますが、事務局からご意見はありますか。

事務局

まだ具体的にどういったものかは決まっていますが、その時にはすぐにご相談させていただきます。

会長

趣旨に関しては少なくとも、この協議会の中ではこの内容で共有し、皆で問題意識を1つにして進めていきたいと私としては思っています。要はですね、いわゆる車社会といわれる地方部ですね、自動車を自由に使えない方々が一定数いらっしゃる、その方々が極端に不便をされているというのが現実としてあると。その方々が必ずしもいつも色々不便な点、不満な点等をおっしゃっていただけるかというとなかなかそういうわけにいかないというところがありまして、そういう方々がどのように移動されているのか実態を把握して、その上ですね、ご利用しやすい交通体系を作りたいということで、皆様のお知恵をお借りして良い計画を作りたいと、こういうこととございます。もちろん、車を使われている方でも、特に都心に出られる際等に、取手駅までの大利根交通さんのバスを使われるという方は非常にたくさんいらっしゃると思います。こういう方々が安心して今後も使っていけるように、安定した運行を実現できるような、そういったところまで考慮に入れて、計画を作りたいと私としては思っているところでございます。

それと、P2で計画策定の視点というところが書いております。今申し上げた通りで、実態が分からないと、良い計画ができないというところがありますので、今日これからご説明いただくアンケート調査というのは、その意味ですね、全数でアンケートをとると大変手間もお金もかかるということで、抽出ですでもう準備いただいているところですが、町内の皆さんが、どのくらいの方がどんな方法で、どこに行っているかといったところをですね、きちんと把握をして、それらの方々のニーズに対応した計画にしていきたいと、私としては考えております。ですので、今までの交通体系をそのまま継続することが必ずしも目的ではなくて、時代に合っ

た良いものは取り入れていきたい。そのために必要なことを議論して、あまり他の色んなところにしわ寄せがいかないようにというように考えているところがございます。そのために、今年度についてはあと1回会議を開いていただき、来年度ですね、少し皆様にはご負担をおかけしますが、4回お集まりいただいて、中身について議論していただくというようなことを、ご提案いただいたというところがございます。こういったところで特に趣旨に大きな問題はなさそうでしたら、この議題はこれで締めて次に行きたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。はい。ありがとうございます。では（1）についてはこれで締めまして、この内容で原則進めていくということで、先ほどいただいた修正については、対応よろしくお願ひしたいと思ひます。

では、続きまして（2）各種アンケート調査概要について ということでこちらも引き続き、(株)ケー・シー・エスさんからよろしくお願ひします。

(株)ケー・シー・エス

\*資料に基づき説明 (各種アンケート調査概要について)

【資料2, 2-2, 2-3, 2-4, 2-5, 別紙1, 別紙2】

会長

ありがとうございました。皆様には事前に住民アンケートをご覧いただきまして、事前にご意見を頂いているということで誠にありがとうございます。ご意見ご質問、あろうかと思ひます。伺えればと思ひますが、何かありましたら、よろしくお願ひいたします。いかがでしょうか。

委員

事務局にお聞きしたいんですけども、3,000人対象のアンケートはもう来ているんですよね。既に発送してまますよね。既に返答しちゃっていると思ひまして。

事務局

これからになります。恐らく総合振興計画というまちづくり計画の方は送っていますのでそちらになるかと思ひます。

委員

バスの調査票はランダムに町民に送るのではなく、大利根交通さんを使っている方だけを対象に送るんですか。

事務局

利用者はそうなります。大利根交通さんのバスの方にアンケート票を取りつけさせていただいて、それを持って行っていただいて、回答いただくということになります。

委員

もう1点、満足度について、「やや満足」や「やや不満」が抽象的なので、「満足」、「普通」、「不満」が良い。選択肢はそんなになくて良いと思ひます。

それと、これらは全部アンケートなので、希望なんじゃないですか。ですから、ここに福祉課長もおりますけど、福ちゃん号の今までの利用者の実績推移、最初に福ちゃん号を運行した時から現在の推移を見ていかないと、あくまでも地域公共交通にとっても、利用者が減っていくのにお金の方で果たしてどうなのかなと。この小さい町で、例にAIバスがありますが、これはちょっとね、なかなか違うことは、2300万ぐらいソフ

トもかかりますから、そのところなかなか考えた方が良くないかなと思います。ですから本当に利用者数が、横ばいになってだんだん減少してるのにな、地域公共交通でやっぱり大根交通さんも生活もありますから、考えなきゃいけないんじゃないかなと思います。以上です。

会長

ありがとうございます。ご意見は承るということなんですが、AIについてちょっとだけ追加で説明させていただくと、一応効率的に運行ができるようにするための仕組みなので、2300万かどうか会社によってかなり導入費用が違ってきますので、ペイする場合もあると。ただ絶対ペイするわけだけではないので、それこそちゃんと議論して、要するに状況によって投入すべきかそうでないかっていうのがあります。AIの何が良いかという、タクシーの配車等でも使える場合があって、それで使うとやっぱり人力とどっちでやるのと、そんなAIの何が良いってわけではないんですけど、そういう方面の人手不足もあつたりしますので、そのあたりのことを考慮すると悪くない場合もあると。なんで一応検討はしましょうと。そのあとにどうするか、それこそこれからどう活用していくかをアンケートで把握して検討していくということになっていくかと思えます。

委員

配布方法について、2-2は全体配布になり、それぞれはそれぞれの目的における配布の方法ということで、3,000人に行き渡るの2-2という形になろうかと思えます。2-2はかなりやっぱりアンケート調査にしてはボリュームが相当量になっていると思えます。いわゆる配布から回収期間、これがあまり短くても大変ですし、あまり長くも間延びがしますから、大体1週間とか10日とか、そのようになろうかと思うんですけども、その辺の設定を少しお考えいただきたいなというふうに思えます。それから、そうすると、2-3だけが回収日を指定してあるんですが、これはこれでよろしいですね。

会長

これは当初の案で、他と同じでまだ決めてないので大丈夫です。

委員

それから3,000人の対象なんですが、対象人口はおよそ1万4,000人と考えてよろしいでしょうか。

事務局

1万3,000人とあとは何百人ってところになります。

委員

対象の2割ぐらいとかなり多い調査になりますが、一生懸命頑張ってください。以上です。

会長

どうもありがとうございます。一応、3,000人というのを、学術的知見で申し上げますと、配布数としては適正よりは多いかなと思ってます。ただ、本来ですと、全員に配って、全員の動きを把握するのが本来でしょうという意見もあろうかと思えます。その中で、統計的に問題ない数字をある程度確保したいということ、で、3,000人でやっております。回収率はどのくらいを見込んでいますか。

(株)ケー・シー・エス

最近、多分、公共交通に関するご興味がやっぱり住民の皆様、増えてきているところがありまして、最近

40%弱, 30%後半ぐらいの回収がベースかなというふうに考えております。先ほどご指摘いただいた期間なんですけど、一応、資料2の1ページに書かせていただいています通り、一応2週間、皆様のご自宅に届いてから2週間を想定しているんですけど、ただその期間を過ぎても結構戻ってくるので、実質は3週間ぐらいは見ようかなというふうに考えております。

委員

今度やっていただけるQRコードを使えるような若手がすぐ入って来るのでしょうか。回収率を期待したいです。

会長

ぜひ、多くの方に答えていただけるような工夫をやっていきたいと思いますが、私からは無作為抽出とするか、年齢別地域別ってというのはどうするか。要は、特定の地域の特定の年齢層だけがたくさん返してくると、多分ちょっと偏った結果になってしまうというのがありますんでこのあたりはどちらかというとな事務局的調整になろうかと思いますが、なるべくバランスのとれた取り方、配布の仕方になりますか、回収率はどうか読めないのでもなかなか言えませんが、配布数はなるべく均等になるような工夫をしていただけた方が良いのではないかと思いますのでご検討いただきたい。

委員

資料2-3と2-4は車内に調査票を留め置きし回収するという事なんですけども、この回収はどれくらいの数があれば統計的なアンケートと有効になるのでしょうか。

会長

「母集団」と言いますが、全乗車人数がどのくらいかによります。人数が少ない場合、例えば100人ぐらいの方が対象の場合は、50%でも足りなく、もうちょっと欲しいとかっていう形で、その代わり、500人とか600人とか乗ってるのであればその半分以下でも大丈夫とかそういうサンプル数の計算がありまして、1万人だと大体400あれば十分なんで、どれぐらいってちょっと、実際の母数がないか分からないので申し上げにくいんですが、なるべくお答えいただきたい形です。ご乗車の皆様には、今後のバスもちろんそうですし、福ちゃん号やふれ愛タクシー、よくご理解いただいているとは思いますが、お答えいただくことで、ご意見頂いて、より良い公共交通を作っていきたいということですので、基本的にはもう乗っていただいた方全員に答えていただきたいというぐらいでご案内いただいて、それで、可能な限りで回収していくというような形がいいんじゃないかなと私は思います。どうぞよろしく願いいたします。

事務局

さっきの配布のところで、やはり地区のですね、年齢構成、その辺を考慮しまして、配布したいと思いません。

会長

ありがとうございます。このあたりは詳細はご報告いただかなくてもよいと思ってまして、結果としてちゃんと地域ごとのものが出てきたと、そういうことでぜひよろしく願いいたします。

委員

一応、常に使っている側としては、皆さん運行されている側がほとんどの委員会の状況で、認識の差が多分あると思うんですね。私が最近お会いした方にも、ご主人が急に倒れられて、本当にこ公共交通があって良かったわって。これから人口を見ても、だんだん免許証を返納される方がどんどん増えていくわけですか

ら、必ずニーズ的には減ることは想定されないと思うんですけれども、これからのことだから結果は関係ないんですけれども。あと、現在困ってることは2年後とかではなくて、早くても1年後には変えてほしいという方のアンケートの結果に多分なと思います。これから先のことを議論していくのがこの活性化の委員会なので、それを考えると、2年後から8年後ですよ。そのことについて話すべきで、あまりにも現在のことだけが問題化されているので、8年後にはここから通う人はもう誰もいないんじゃないかと思いません。現在困っているのは、免許がないので高校生は自分で通えません、中学生はもちろん塾に行けません、だから送ってます。だからアンケートを見ても、別に何の反応もないです。現在、親が送ってます。ただし、他の地区と比べると離れ小島の孤島みたいなものですから、子供たちにとっては大学も行けない、高校も行けない、中学校も行けない。条項の一番最初に戻って大変失礼なんですけども、町に合わせた問題を解決しましょう。公共交通からは離れて申し訳ないんですけれども、例えば現在、中学生全員が自転車で通学してます。自転車の道を作ってあげれば、ここは自転車で絶対に事故が起こらない町だとなれば、親がここに住ませようっていうのも変わってくるし、ここから駅まで何かしらで出られれば、もう公共交通は新しい路線をどうすることは考えられませんって言われてしまうと。現実的に考えると、私の息子がいた時は学校が1個になりました。もうこれあと無くなるだけですね。なぜなら住む場所じゃないので。小学校までは良いです。とっていい環境で楽しいです。そこから先は何もなくなって、うろうろ中学生が歩いていると交通事故で本当に大怪我したりもありますし、あと、なかなか車を手放さない高齢の方がどんどん増えます。そうするとさらに子供たちは危なくなります。農道が暗いので、見えません。以前に事故関係のことでお伺いしたことがあって、人身事故については取手の方で管轄しているので取手は分かりますけれども、利根町の方については分かりませんと言われまして、何も記録がないという状況です。誰が何を良くしようとしているのか、っていうふうにも思います。本当であれば、2年後から8年後のことについて考えて、みんなが動きやすいようにしましょうっていうのが、今のアンケートで聞くところがなくて。

## 会長

アンケートで聞いたものを、それを基に今の状況を改善をしようだけを考えるつもりはそもそもなくて、そこは多分そんなに意識はされていないと思うんですが、今の話は事務局にお任せして、私からも意見をちょっといいですか。私、鉄道が本来専門でして、鉄道が廃止されると何が起きるかっていうと、地域から中高生の世帯がだんだん少なくなっていきます。それは通学させられないからなんです、車で送らないといけないうのが、ご両親にとって大変負担が大きい。それで、より交通至便なところに引っ越される事例が多いです。同じことがこの町内で言うと、仮に大利根交通さんの路線が不便になると多分その周辺には、要するに若い世代が住みにくくなると私は思ってます。なので絶対維持しなきゃいけないです。それをやらないと、おっしゃる通り、子どもが住めない町になってしまいます。現状でなっている可能性のあるところがあって、それをそのままにしているのかっていうのは、私は問題意識として捉えています。それが必要なのであれば、ちゃんとバス路線を引かないといけなし、それがもうできないということで今おっしゃっていただいたように、自転車など別の交通手段を安全で利用できるようにするようなことまで提言してもいいだろうと思ってます。が、実際どうなるか、分かっていないというのがあって、どのような形にすると割と長期的に住んでいかれるような町になるのかっていうのも私ちょっと読みにくいところがありまして、やっぱりそうすると現状どんなふうに移動されているかというのがある程度把握できないといけなし。それでアンケートを実施させていただきたいと。その中で、特にお子様をお持ちの保護者の方々にとって、或いは高齢の皆様と、お住まいの方々がその方々を送っておられる中、実際それで良いと思っているかどうかっていうのは聞きたいんですけど、聞けるんでしょうか。送迎負担がめちゃめちゃ強くて、どちらかという女性、世帯の中で、女性で運転できる方の負担がものすごく大きいと。運転だけで1日2時間以上という方が結構いらっしゃるというのは、色んなところの統計でも分かっている話でして、これが、公共交通が便利になると、その分を別のことに、それこそちゃんと別の家事をやれるようになりますし、或いは仕事に出ることができるようになるんで、そういうことができるようになるために、実態としてどうなんだっていうのは聞きたいわけですが、これで聞けるんでしたっけ。

(株)ケー・シー・エス

町民アンケートの間8-2のところでは公共交通サービスに関してお聞きしているので、そこでそういった設問をちょっと追加することは可能かと思えます。

委員

どなたがどんなところに送迎していますかみたいな。

会長

そういうことがちょっとあまり想定できていない質問票になってると、今のままでっていうことになっちゃう気がしますよね。一方でやはりボリュームミーなので、見ただけで10ページあるんで、答えるのが嫌になっちゃうかもしれない。ちょっと工夫する必要があるまして、1~2問そういうのを入れていただくと、大分印象の違うアンケートになりますかって言ったらよく分かんないんですが、そういう方々にとっても助けになる計画にしたいです、私としては。なんで、ちょっと検討を、ここでばっとうこういうふうにしたらいいですねはちょっとなくて、作り込みがあってそういう、どこに増やすっていうのはなかなか難しいんですが、ちょっと検討しましょうということにさせてください。ということでいかがでしょうか。すいません。恐れ入ります。ありがとうございます。

高齢者の対応が大事なんですけど、実は公共交通があることで一番救われるのは中高生です。中高生をお持ちの保護者の方々になります。なのでそういう方々に対する子育て支援的な面も含めて議論できればいいなと思っております。ありがとうございます。

大利根交通さんに、2-2の間6で、御社の路線バスのアンケート票を作っていたらいいんですけど、これで大丈夫でしょうか。

委員

これですね、事前にアンケートの案が弊社に来た時に、最初にまずちょっと設問の中で朝をもっと増やしてほしいとか、夜をもっと増やしてほしいというのが主となった問だったんです。これ実は来年の2024年問題にも大きく関わります、朝を増やすことと夜を増やすことがこれからまず会社にとって一番きついことになるんですね、もう朝働かした運転手は夜まで働かせない、夜働かせた運転手は次の朝は働かすことができない。こうなると、今の2倍ぐらい人手がないと、ダイヤが組めないっていう状態になります。これをこの設問の中に入れられると、なんか町の方が、そういう弊社にとっては過酷なダイヤ状況をなんか誘導するように見えちゃうんですね。そこをまずちょっとご指摘させていただきました。あともう1つ、選択肢6の「取手市方面のルートを延長してほしい」というのがですね、バス協会の方もおられるのでよく分かると思うんですが、バス会社ごとの何というか縄張りとかそういうのがありまして、取手市へ延長という常磐線の向こう側に行くということに私はちょっと受けとめるんですね。例えば、A交通という事業者がB交通という事業者の運行領域に入っちゃいますと、もうそこで本当にバランスが崩れてしまっていて、もし、例えば乱暴な話、A交通がB交通の方に行くのであれば、B交通もこっちに来るよと。そういったちょっとバス業界の事情というのがあるので、この選択肢6に関しては、これをもしニーズで答えられたとしても、それに対する施策を実現させるのは大変難しいかと思えます。

会長

ご意見いただきましてありがとうございます。仰る通り無理だと思います。縄張りは今はないので、入れようと思えば入れられるんですけど、同じことをされるだけですので、ちょっときついだらうと私は思います。

## 委員

例えば岡山とかが良い事例ありましたよね。一番儲かる路線に、新規参入会社が入ったところで、両備バスさんみたいに、老舗のバス会社がもう怒っちゃって、うちは撤退するよと。そういったもう本当に規制緩和での法律の話ではなくて、やはり業界で担っていかなくてはならないバランスっていうのがあるので、その部分を乱用されちゃうと難しい話だなというふうに思います。

## 会長

そこはあまり無理をしなくてもよいのかなと。説明は省略しますが岡山の方では結構事業者同士で、何とか戦争に近いですね、そういう状況になってるとこだったりそういうのはあまり求めてなくてですね、それぞれ協働上でやるべき地域できちんと安心して毎日使うことができる路線を維持することが重要と思ってます。どちらかと言うとですね、減らしてもよいが先に来ちゃうと、もう減らすこと前提であることを強くアンケートの中で訴える形になってしまうので、例えば維持するならここだけ、朝だけはぜひ維持してほしいとか、或いは夜の方を手厚くしてほしいとか、そういう前のものを無くして、要望事項として増やすことはできないけど、今の維持は頑張ればできるかもしれないと思ってますんで、それをどんなところを重点的にやっていく。そういう見方をしたり、あとは町内の路線のあり方として、今の路線のあり方で良いかどうかより、例えば30分に1本ぐらいの運行頻度を維持できるような路線を一本作ってしまっ、そこに集約したらどうかというようなことも、一応考えられはするわけですよ。そういう選択肢なんかも、町として今後どうしていきたいかと、その中でできる選択肢を入れていただくと割と選びやすいというふうに思います。もう一つはそれだけ絞られちゃうとね、本音の部分で、町民の皆様がそこでどうかっていうのが分からないので、自由意見も書いていただいて、出来る出来ないは別にして、こういうご意見、ニーズがありますということ、ここで挙げていただくとその先の議論に繋がるのではないかと思います、私はここはそういう感じでいいんじゃないかなと思ったんですがどうですか。ちょっと喋り過ぎですね。

## 委員

本当ですね。あと、例えば毎日運行本数しなくてもよいので週のうち数日っていうのもなかなかこれちょっと難しいんですよ。路線の認可の話でもそうなんですけど、ちょっと難しい話だと。運転手の確保とかでも、均等にダイヤに運転手を入れていくことができなくて、ある日はすごい大量な人数の運転手が必要になって、ある日が少ない人数が必要であったりとか、そういったことも出来る方向の状態と捉えられてしまうので、なかなかちょっと現実的には難しいのかなっていうところはありました。

## 会長

できるところで、選択肢を少し少なくして、自由意見入れていただくぐらいで良いかなと私は思っております。私からはこの1点がちょっと気になっておりました。他はいかがでしょうか。

## 委員

今回の問題については前回の皆さんのお話にもあった通り、費用対効果なんですよ。基本的には費用対効果。皆さんちょっとお使いになって、計画があつてね、こういう事業、やっぱり運営してるわけですから、基本的に今回ですねこの資料2のアンケート調査の概要の中で、満16歳以上の町民3,000人をベースにしている。年齢差のギャップを完璧にクリアするのは難しい。全体の5~6割がうまくいくようなプランニングがよいと思う。16歳以上ですから、学生ですよ。それとも、その中でやっぱり働いてる方もいますし、高齢の方もいるわけですのでその辺のところの運転免許の状況とか、年齢差とか色々なことの中で、ギャップが非常にできるわけですね。それを、完全に、完璧にクリアすることは全くないと思いますね。ある程度ね、やはりせいぜい5~6割で納まれば私はベストプランニングだと思いますね。無理すると皆さんにまたご迷惑かけちゃうわけですよ。ある程度割り切って、プランニングをした方がよいと思いますよ。ふれ愛タクシーだって経費がかかるわけですから、福ちゃん号だって今の1~2台でも人件費とか設備費は回収で

きないわけですから、そういうところを、全体を見ながらね、やはり計画的に、この事業は人を運ぶ事業計画なんでね、この辺のところはまた慎重にやっていただかないと、利根町の中をですね、中だけの問題っていうか、これが非常に大きなサンプルになってですね、他のまちの方にもですね、恐らくどのようなプランニングを立てて、事業がうまく推進できているのか、その辺のところを出来れば成功に結びつけたい。このように私は1人の意見として出していきたいと思います。いかがでしょうかね。

委員

成功例のような形で発信していきたい、そういうことなんですね。

会長

ぜひそうしたいですね。ぜひそうしたいんですがなかなか黒字運営が難しいので、そこに尽きるんですよ。なんで、結局、町のお金を幾らか出して維持していくという感じになりますので、その割合がどの程度下がるか、その出したお金に対して満足度とかで図っていききたいということで、そういうご提案を頂いていると思いますんで、良いものを作っていきたいと思います。

委員

アンケートなので、現在、どこへ使ってますという質問になっておりますが、単純に実はどこへ使いたいか、特にバスも町のものも使っている側としては、たんにそこにしか行けないので、もし別の可能性があったら、実はどこに使いたいか。実はそれが無いから行けないというのがあると思う。

会長

おっしゃる通りですね、現状こうなんでこれが維持できればいいんだと本当は生活の改善に繋がらないですね、本当はやりたいことが別にあるんだけどそれができていないから、それがうまく、質問の中で出てくると良いということですよ。これもちょっと持ち帰った方がいいような気がします。

㈱ケー・シー・エス

一応、問8-1と8-2で新しい交通をどういう目的で使いたいですかとは聞いているんですけど、ちょっとこれだと多分違いますよね。おっしゃっているものとは。

会長

コンサルも私もこの問8-1みたいなのは、国土交通省はですね、こういうの入れたらいいよねっていうので我々は皆よく知っているんですけど、選択肢7のグリーンスローモビリティとか業界外には知られているんですかね。よく分からないんですけど。要は何かっていうと、ゴルフカートみたいなやつを時速20キロぐらいで走らせている。意外と需要もありまして、良く思われてるところもありますよね。なんですけど、これでイメージできるかって言ったらちょっと難しいと思いますし、実験するならそれで見せちゃって、それで善し悪しを判断した方がいいので、ちょっともう少し減らすなり、今イメージできるのは例えば電動キックボードや自転車を1つにまとめて聞いてもらったり、選択肢をちょっと減らしていただいて、こういうところに行きたいというような希望に関わる質問は入れるのはどうかなとちょっと感じました。やっぱり色々ありますね。ご覧いただいて色々ご意見頂いたと思ってもやっぱり、皆で集まると意見が出ますよね。ありがとうございます。

委員

町内の道路を1周ご覧になってもらって、細いところが中学生の通学路なんですけど、本当に危なくて、

会長

通学路が大問題と。結局それがあるから時々集団通学の子達に車が突っ込んじゃうので、安全優先でやらないといけないんですけど、色々とできないこともある。だからこれは公共交通の議論なんですけど、本当は、道路系の計画と合わせて安全に歩けるよう提言できると良いんですけどね。こういうところが本来あるべきですけど、この場合は橋がずっと渋滞するとかっていう問題もありますんで、提言の中に入れて欲しいところではあります。

委員

サイクリングロードも取手の方にも龍ヶ崎の方にもあるけどここにはないっていう。色んな有名な神社とかもありますので、それと通学路をくっつけた自転車道があれば全員が中学校に通うことができる。そういうので町を賑わすこともできると思う。

会長

この計画の枠外なんですよ。なんですけど、結局、公共交通って、生活があって成り立つ計画なので、こういうところが本来改善すべきであるというところは意見として入れたいです。意見として入れていかないと、なかなか改善されないなと思うので。総合計画なんかにも本当は入れられるといいんですけどね。私ちょっとそこまで口が出せないんですけど、ぜひ、何もしないでということはないでやっていきたいと思います。あと、事業者及びプロフェッショナルの皆様で、何かお気づきの点がありましたら、ご意見頂ければと思います。住民の皆様はご意見頂きましてありがとうございます。もしないようでしたら、一応持ち帰りで私からご提案した点もありますので、最終の案を作るまで、もうちょっとお時間をいただいて、なのでアンケートが少し後ろめになるかもしれないけどですね。

事務局

そうですね。後ろがあるのであまり遅くはできませんが。

会長

ということですのでもし今後もですね、改めてご覧いただき、お気づきの点がありましたら事務局までお願いしたいと思います。そういう形でよろしいでしょうか。どうぞよろしく願いいたします。どうもありがとうございました。では、(2)について、一応これで進めさせていただきます。活発なご議論いただきましてどうもありがとうございました。

あとですね、議題の方がもう少しありまして、(3)公共交通を取り巻く現状について ということ、こちらの資料3ということで、いただいております。引き続きご説明いただけますでしょうか。よろしく願いいたします。

(株)ケー・シー・エス

\*資料に基づき説明（公共交通を取り巻く現状について）【資料3】

会長

ありがとうございました。資料のご説明ということですので、ご意見、ご質問ありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。まず、私から要望になりますが、やはり可視化が非常に重要で分かりやすいと思いますが、例えば12ページとかの最大700人というのが、月あたりなのか年あたりなのかこのあたりは、分かる人が見るとすぐ分かるんですけど、計画として外に出すことを念頭に置いて作るものなので、要するに単位ですね、毎月何人、毎年何人とかこのあたりなるべく分かるようにしていただいて、具体的に1日あたり何人ぐらい乗っておられるのかといったことが、興味を持って読んでいただいた方に分かるようにし

ていただくとありがたいと思います。特に14ページで言うと、ふれ愛タクシーの利用者は1日あたりでいうと、大体1便目で1.1人ですね。こういうのが、数字で出てくると分かりやすいと私は思っています。ふれ愛タクシーはタクシーなので、利用者が1～3人増えると理想的というのが少し考えていただくと分かるわけですね。このあたりの状況を多くの方にご理解いただいて、その上で、より良い方法を考えていくところかと思っておりますのでよろしく願いいたします。他はいかがでしょうか。

#### 委員

12ページの「ヤオコー前」と書いてあるのは今「カスミ前」である。あと、1便というのが何時からなのかを書いていただくと。

#### 会長

このページだけを見て分かるようにということですよね。そういう意味での工夫をお願いできれば思っております。ただ、だいぶご尽力いただいていて、16～17ページの可視化は非常によく出来ていて、円の大きい所が利用が多いと分かりやすいので、ぜひこの方向で分かりやすい資料を作成していただけるようお願いいたします。

しっかりご覧いただくとともに、どちらかというか、計画を作る際に、我々の方で意識しなければいけないところというところもありますので、私の方でもしっかりちょっと確認をさせていただこうと思います。通学もやはり町外に出られる方が多いので、こういう方々のための交通機関ないし交通手段というのは必ず確保をしておかないと、さっきの話ではないんですけど、本当にすぐ人はいなくなります。このあたりをきちんと確保していきたいところです。一方で、通勤の場合は車の方がかなり多いのも分かりますので、そんなふうにもきちんと区別をして、救っていくべきところを考えると。それで見ますと、1日あたりの公共交通の利用者数、ふれ愛タクシーや福ちゃん号で見ると1万何人いる中での100人に満たない程度で、そうすると町民の中の現状で1%とかそのぐらいの方々に対して手厚くやっているところかなと私は思っています。これが良い悪いって話ではなくて、そういう対象の方がどこに行かれるだろうと。それに対してどのように効率的な、かつ便利な交通機関を維持して、或いは発展させるかというところが課題になりますと。結構難しい問題でして、どこでもなかなかこうやったらいいよっていう回答が出るものではありませんが、皆様のお知恵をお借りして、色々と作っていくと。そういうものの基礎として活用していくものとなります。

では、議事はあと（4）その他 があります。よろしく願いいたします。

#### 事務局

アンケート等について色々ご意見頂きましてありがとうございました。先ほどの会長からお話しいただいた通りで、ご意見を頂いて確認をしてというところでちょっとご提案なんですけれども、アンケートをこれから実施させていただくわけなんですけれども、改めてちょっと確認させていただいて、ご意見を集約してっていうところを見ますと、アンケートをさせていただく時間と、また確認させていただくために要する時間を総合的に踏まえますと、なかなか正直ちょっと次回の会議までにアンケート結果っていうところが出るっていうところが非常に難しくなってきたところもありますので、今回頂きましたご提案、ご意見をです、踏まえた上でですね、コンサル事業者さん、会長と事務局の方で、ちょっとまとめさせていただいた上で、発送させていただきたいという提案なんですけれども、皆様いかがでしょうか。

#### 会長

私の方で確認して、良いとなったらそれでお送りしてよろしいでしょうかということでもよろしいですか。

\*委員一同 同意

## 会長

ありがとうございます。責任を持って見させていただきます。なるべくスケジュールを後ろ倒しにするよりは早めをしたいと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございます。

その他、よろしいでしょうか。

では、全ての議事が終了致しました。ご協力ありがとうございました。では、議事をお返しいたします。

## 事務局

会長ありがとうございました。次第の4 その他になりますが、その前に皆様からもし何かございましたら、お願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

\*質疑なし

今後のスケジュールについて説明

(第3回会議について地区懇談会について)

※5 閉会

以上です。今日は長時間にわたり、ありがとうございました。以上をもちまして第2回利根町公共交通活性化協議会を閉会させていただきたいと思います。皆様お疲れ様でした。

※終了